

私たちは破壊寸前で、い止めた根尾川堤防の緊急復旧作業を24時間態勢で続けていた。昼夜を問わず、真夏の猛暑の中、支援のおにぎりも3日目には喉を通らない程だった。夜間の作業では近隣の皆さんが重機などの騒音で眠れないだろうと思いつつも作業を進めた。そして21日目の夕方、重機が最後の作業も無事に終えて堤防に上がりエンジン音を止めた。期せずして周りから「ワッ」と拍手が湧き上がった。私は安堵で思わずその場に座り込んだ。それを見て皆も同様に座り込んでし



根尾川決壊・地域を守れ！(下)

山辰組 社長 馬淵和三

まった。交代で今はこの場に居ない皆と共に、こんなに頑張ってきた。たのだと、心から「ありがとう」と感謝の言葉を掛けた。そこへ犬を連れた老夫婦や近所の皆さんが、初めて声を掛けて来られた。「今までは皆さんの懸命な姿に声が掛けられただけど、本当に大変な仕事を、ありがとうございます。堤防が切れそうになった時、恐ろしくて腰が抜けて動けなんだ」「夜中に重機の音が聞こえると私を守護してくれと、思えて安心やった」「私だけやないよ、ここが切れたら大野町中がや

れてしまつので、町中の皆がそお思ってるよ」と。疲れた体に思いがけない言葉を頂き、作業を進めてきた木曽川上流河川事務所の方も私たちも、やり遂げた歓びの中、真っ黒に日に焼け汗にまみれた満願の笑顔でこのご褒美の言葉を頂いた。建てるから、この貴重な経験と感動は今も心に焼き付いている。自然災害から地域を守るのは私たち、それぞれの「地域の建設」との自負をさらに深めた。その後の災害対策も、この経験が大いに役に立った。